

## ◆ 2022 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 環境ネットワーク埼玉

25A-43

代表者：代表理事 星野 弘志

URL : <https://www.kannet-sai.org/>

### 1. 活動が必要とされた状況

埼玉県内の SDGs 目標を達成するためには、基盤となる環境保全活動が重要である。今後も環境活動を活発化するためには、地域活動力の向上が求められる。そのためには、環境活動を実践している関係者が一堂に会し、情報交換による相互交流及び情報発信ができる場が必要とされる。学生からシニアまで世代を超えた者が意見交換の場に参加することにより、連携、協力、パートナーシップの関係を作りだし、活動が深まることが期待できる。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

第 4 回 SDGs エコフォーラム in 埼玉

～つながろう 広がろう 世代を超えて エコの環～

〈実施時期〉12 月 10 日（土）10:00～16:30

〈会 場〉ソニックシティ+オンライン

〈参加人数〉425 名（会場 226 名、オンライン 199 名）

〈主 催〉第 4 回 SDGs エコフォーラム in 埼玉実行委員会

埼玉県地球温暖化防止活動推進員、自治体、環境団体、企業等を構成員とし、企画調整・準備・当日運営を行った。（共催：特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉・埼玉グリーン購入ネットワーク、後援：埼玉県）

〈基調講演〉「脱炭素をテコに強靱で持続可能な地域を目指す」

中井 徳太郎氏（前環境事務次官）

〈SDGs スピーチ〉筑波大学附属坂戸高等学校 2 年生

〈埼玉県地球温暖化防止活動推進員感謝状贈呈式・エコアップ認証事業所表彰式〉

〈分科会〉① 持続可能なライフスタイル ② 私たちの暮らし、生物多様性を守ろう

③ 再生可能エネルギーによる地域脱炭素づくり ④ 若者が創造する脱炭素な未来

⑤ 食と農のローカリゼーション



午前の部の様子



若者分科会の様子

### 3. 活動の成果

会場とオンラインを併用することで昨年以上の参加者を得て、活発な交流を促すことができた。分科会においては SDGs の目標達成に向けて 5 テーマを設定し、違った切り口から議論を行った。特に、若者を主体とした分科会では、約 30 名の学生が集まり、2030 年に向けた脱炭素アクションについて、ワークショップを通じて議論を深めることができた。

### 4. 今後に残された課題

- ① 実行委員の拡大が望まれる。
- ② コロナ禍以前のように、大学との連携により、大学での開催を模索している。
- ③ オンライン参加者が年々増えているが、できれば顔を合わせた場としたい。
- ④ 開催日が土日のため、行政や企業関係者の参加が難しい。企業や行政の参加が課題。
- ⑤ 内容についてもタイムリーなものを随時提示し、多くの参加者を得たい。